

巻 頭 言

部品技術

常務取締役

岡 本 久 二



我々を取り巻く環境は甚だ厳しく、低成長の永続化の時代となった。こうした低成長の時代にあっても、当社が発展し続けるには、常に他社より優れる商品開発力と収益力の確保が必須である。

このために当社の技術開発力の更なる強化・拡充が求められている。その一つは商品の機能向上と付加価値向上を目的としたソフトウェア技術の開発強化であり、会社として重点テーマとして取り上げている。二つ目は生産技術開発力の強化であり、その一環として、今年1月に生産技術開発部に材料実験課と部品試作課を新設した。

当社の技術は、エレクトロニクス技術をベースにA V C技術とモートロニクス技術を活用して、社外から部品を購入し、組立加工・検査・製品化・システム化するに必要な設計技術と生産技術から成り立っている。コスト面からいえば、(1) 売上高の六割強を材料費として部品購入し、(2) 組立・検査・製品化している。この(2)の中にその技術は反映され付加価値となって利益の源泉となっている。

しかし、今後は他社より優れる製品開発力と収益力を確保して行くためには、この六割強のコストを占める部品に着目し、技術ノウハウと付加価値の源泉をここに求め、「部品技術」開発力を強化して行くことが重要である。この「部品技術」とは「材料を加工し、部品を生産するに必要な部品設計技術と部品加工技術であり、それらの融合技術」である。

- ・ 部品設計技術：製品からその構成部品に要求される機能・性能・品質・コストを部品図面に表現する技術
- ・ 部品加工技術：設計の要求する機能・性能・形状・精度・品質・信頼性などを低コストで実現できる加工方法を提案できる技術。それには原材料にまでおよぶ広範な知識と、各種の加工技術と技能を開発・習得することが必要である。

この「部品技術」開発力強化の狙いは、(1) 製品設計技術と「部品技術」を連携させ融合させることにより、他社には無い当社独自の新技術・新製品を生み出すこと、(2) 製品・部品のコストダウンが従来以上に可能となり、最近 顧客から求められている「世界一製品」の開発にも寄与できること、(3) 製品品質は部品品質に左右されることが多く、重要部品に

においては自前で品質の作り込みが可能となること、である。

「部品技術」は具体的に対象部品を定めて、設計し、物を作り、評価するという繰り返しの中から得られる。即ち、設計者と生産技術者が与えられた厳しい要求に対し、互いに努力し、協力し、それを実現しようとする活動の中から、新しい技術ノウハウとなって結実するものであり、それにたずさわっている「人」と「ノウハウ」の蓄積によって創造されるものである。

この新しい価値の創造に向かって、設計技術者と生産技術者の活躍を期待したい。

